佐久市埋蔵文化財調査報告書　第179集

家　浦　遺　跡

長野県佐久市湯原　家浦遺跡発掘調査報告書

２０１０．３

佐　　久　　市
佐久市教育委員会

例　言

1．本書は佐久市建設部高速交通課による地方特定道路整備事業（U637号線道路改良）に伴う家浦遺跡の発掘調査報告書である。
2．事業主体者　　佐久市建設部都市計画課
3．調査主体者　　佐久市教育委員会　教育長
4．遺跡名及び発掘所在地　　家浦遺跡（ＳＹＡ）　　佐久市湯原294-3　外
5．調査期間及　　平成19年５月10日～平成20年３月31日
　　平成21年11月20日～平成22年３月29日
6．調査面積　　９７㎡
7．発掘担当者　現場・整理作業　冨沢　一明
8．本書の編集・執筆は冨沢が行った。
9．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1．遺構の略称は以下のとおりである。
　Ｄ－土坑　　Ｍ－溝状遺構　　Ｐ－ピット
2．スクリーントーン表示は以下のとおりである。

　遺構　地山　　遺物　須恵器断面

　遺　構　　土坑　1/80　　溝状遺構　1/80　　ピット1/80
　遺　物　　土鍋・陶磁器類　1/4　　石器類1/3　　鉄製品1/3
4．遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
6．土層は「新版　標準土色帖」による。
7．調査グリッドは小グリッド４×４m、大グリッド40×40mである。

目　　次

第Ⅰ章　　発掘調査の経緯
　第１節　立地と経過　　1
　第２節　調査体制　　1

第Ⅱ章　遺構と遺物
　第１節　土　坑　　2
　第２節　溝状遺構　　2
　第３節　ピット　　2
　第４節　出土遺物　　2
　第５節　調査のまとめ　　5

写真図版

抄録

第１図　家浦遺跡位置図（1:50000）

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　立地と経過

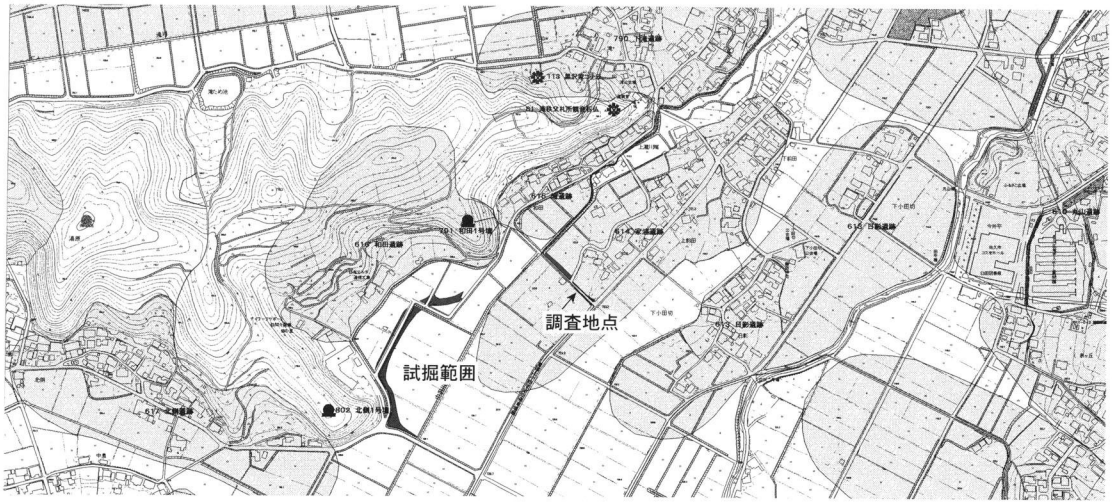
佐久地域は周辺を山地に囲まれた盆地状を呈し一般に佐久平と呼ばれる。北方には現在も活発な活動を続ける浅間山が聳えている。南には蓼科山、東は浅間山と蓼科山を繋ぐように北関東山地が連なり、南には御牧ヶ原・八重原といった台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。水系の代表は千曲川で、市内を二分するかのように貫流し、北と南では地質学的にも大きく異なる。北は浅間山の山麓末端部に広がる平坦な台地で、浅間の噴火によって火砕流及び降下火山灰が厚く堆積している。この堆積層は雨水による浸食に弱く、「田切」と呼ばれる浸食谷を形成している。これに対して、南側は千曲川の沖積地及び周辺山間部の支流を集めた河川の谷口扇状地で、河床礫層と沖積粘土層地帯となる。調査対象となった家浦遺跡は佐久市南西部の湯原地区に所在する。遺跡は通称「小田切の谷」と呼ばれる蓼科山麓の低丘陵に囲まれた沖積微高地上に位置する。標高は723m内外を測る。

今回、佐久市建設部高速交通課が行う市道改良に伴い、試掘調査を実施した。その結果、拡幅部の一部で遺構・遺物が認められたことから、佐久市教育委員会が主体となり記録保存を目的として発掘調査を実施するはこびとなった。

第２節　調査体制

調査受託者　佐久市教育委員会　教育長　木内　清（～平成21年５月）
　　土屋盛夫（平成21年５月～）

事　務　局　社会教育部長　柳澤義春（平成19年度）
　　内藤孝徳（～平成21年５月）
　　工藤秀康（平成21年６月～）
　　社会教育部次長　山崎明敏（平成19年度）　金澤英人　（～平成21年６月）
　　文化財課長　中山　悟（平成19年６月）　森角吉晴
　　文化財調査係長　三石宗一
　　文化財調査係　林幸彦　並木節子　須藤隆司　小林真寿　羽毛田卓也　冨沢一明
　　神津格（～平成21年９月）　上原学
　　井出泰章（平成21年10月～）　出澤力
　　調査員　橋詰勝子　橋詰信子　小林よしみ　小林妙子　井出孝子
　　広瀬梨恵子　碓氷知子　小林百合子　細谷秀子　林　まゆみ



第２図　周辺の遺跡位置図（1:10000）

第Ⅱ章　遺構と遺物

第１節　土　坑

今回の発掘調査では８基の土坑が検出された。しかし、調査範囲の関係から全容を把握できたものは３基に止まる。また形態も不整形のものも多く用途について言及できるものは少ない。その中でＤ２号土坑については形態や土坑内からの礫出土状況から土坑墓の可能性も指摘できる。

なお、各土坑の計測値については第１表を参照された。

第２節　溝状遺構

①Ｍ１号溝状遺構

東側調査区のほぼ中央から検出された。検出長さは350cm・幅55cm・深さ10cmを測る。溝の底面は「U」字形を呈している。図示した土師器甕と考えられる底部が出土した。

②Ｍ２号溝状遺構

東側調査区のほぼ中央から検出された。北側をＤ５号土坑に、南側をＭ４号溝状遺構と重複し、いずれも本址の方が古い。規模は検出部分で長さ74cm・幅33cm・深さ14cmを測る。形態的にＭ１号溝状遺構と似るため、あるいは調査区域外で「L」字に曲がる可能性がある。

③Ｍ３号溝状遺構

西側調査区中央寄りから検出された。規模は検出部分で長さ105cm・幅90cm・深さ10cmを測る。

④Ｍ４号溝状遺構

東側調査区の東寄りで検出された。規模は検出部分で長さ300cm・幅133cm・深さ10cmを測る。形態は中央部分に島状の高まりが確認でき、あるいは２本の溝状遺構が統合された状態とも考えられる。

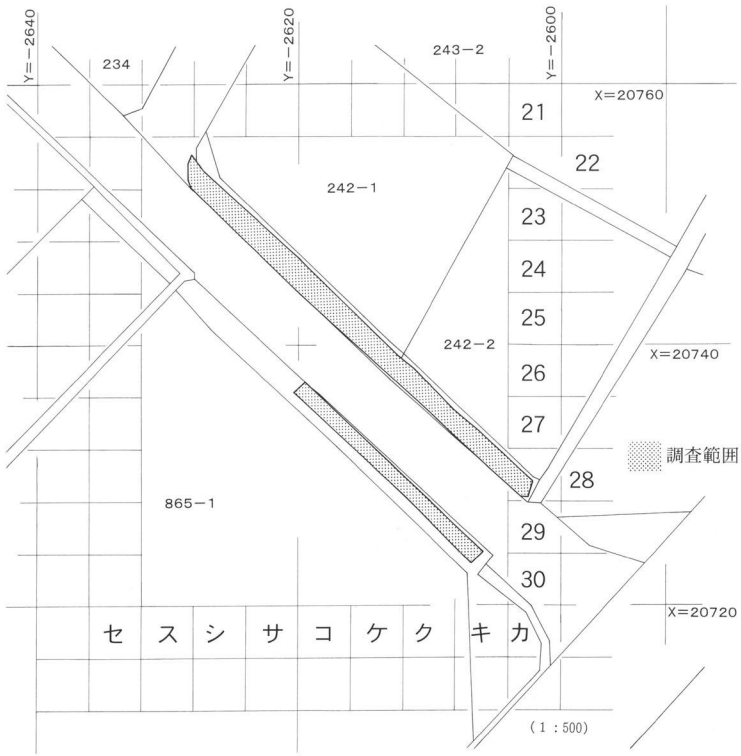
第３節　ピット

ピットは65個が検出された。規則的な配列を示すものはなかったがＭ１・２号溝状遺構に囲まれた部分は特に密に分布しており、何らかの建物址が存在した可能性がある。各ピットについての計測値は第２表を参照。

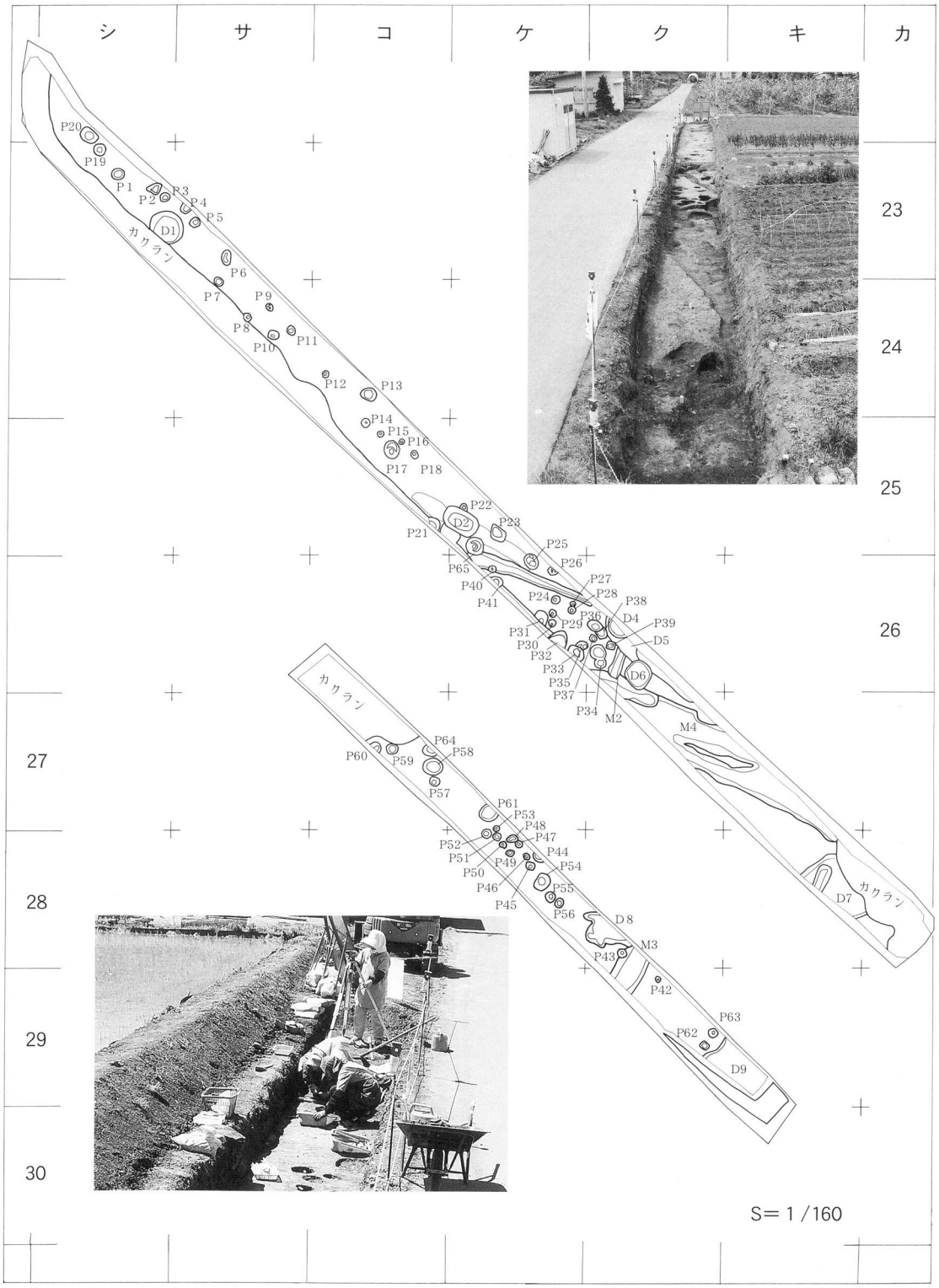
第４節　出土遺物

今回の調査では狭い範囲であったが幅広い時代の遺物が出土した。出土した時代について概略を記すと1.20.21は縄文時代。２は古墳時代。３～13は奈良・平安時代。14. 15は中世。16は近世と考えられる。以下に形態が把握できるものを中心に23点を図示した。

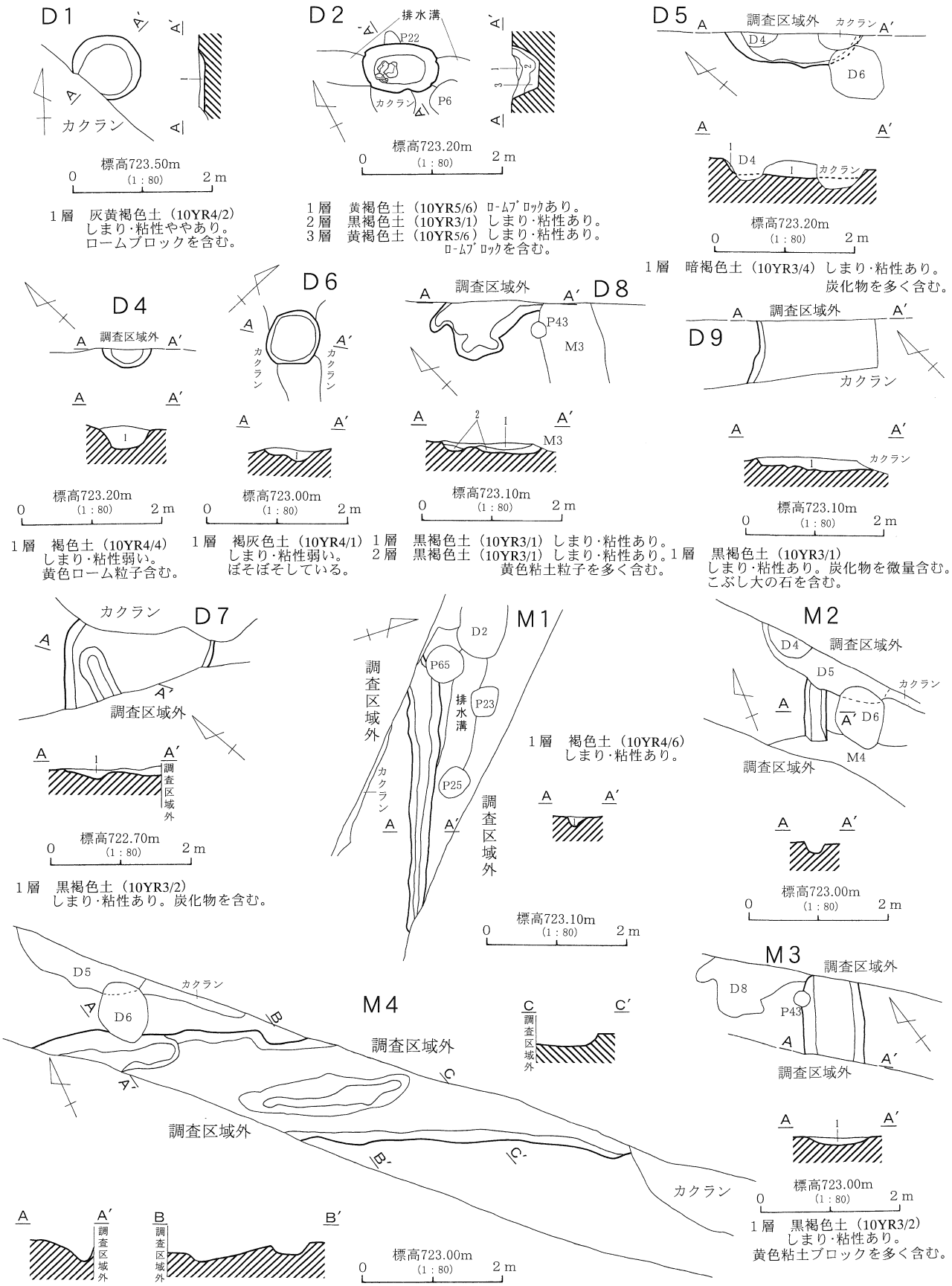
詳細については第３表を参照。



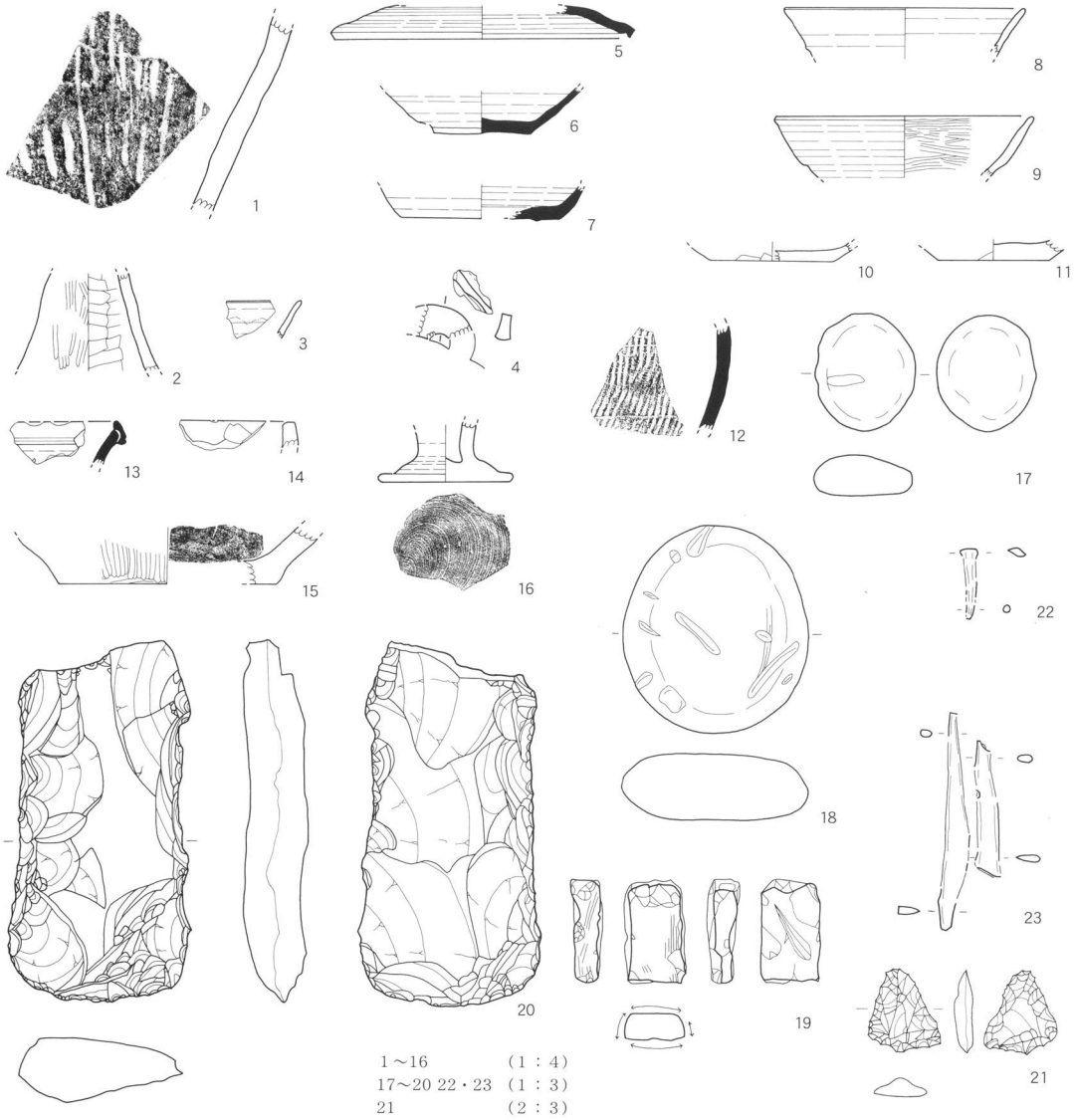
第３図　家浦遺跡グリッド配置図



第４図　家浦遺跡調査全体図



第５図　土坑・溝状遺構実測図



第6図　出土遺物実測図

第5節　調査のまとめ

今回の発掘調査は97㎡という極めて限られた範囲の調査面積であった為、検出された遺構の性格付けまでには至れなかった。しかし、今回調査が行われた小田切地区周辺は現在までに発掘事例が少ない所であるため、出土遺物の項でも触れたが多様な時代の出土遺物があったという事が調査成果に結びつけられると考える。

家浦遺跡周辺の大規模な圃場整備がなされていない部分には縄文時代や奈良・平安時代の集落が広がっている可能性がこの調査により指摘できる。今後、調査地点脇を通過する「中部横断自動車道」などの調査によって、近接する和田遺跡で発見された弥生時代後期集落も含め、より具体的な遺跡の姿が明らかにされるであろう。

第１表　土坑計測表

遺構名	グリット	形態	長軸長(cm)	短軸長(cm)	深さ(cm)	長軸方位	重複関係	備考
Ｄ１	ス－２３	円形	98	－	7	－		
Ｄ２	ケ－２５	長方形	106	69	42	N-65-°W	Ｐ22	礫あり
Ｄ４	ク－２６	-	65	－	25	－	Ｄ５より新しい	
Ｄ５	ク－２６	-	〈165〉	－	17	－		
Ｄ６	ク－２６	円形	75	75	25	－	Ｄ５より新しい	
Ｄ７	キ－２８	不整形	207	－	23	－		
Ｄ８	ク－２８	不整形	155	－	17	－	Ｍ３	
Ｄ９	キ－２９	-	〈160〉	－	13	-		

第２表　ピット計測表

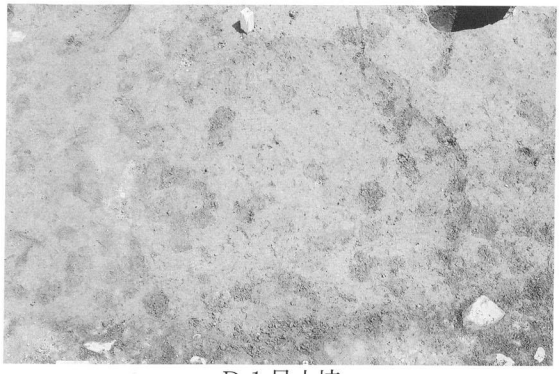
（単位　cm）

遺構名	出土位置	長径×短径×深さ	遺構名	出土位置	長径×短径×深さ	遺構名	出土位置	長径×短径×深さ
P1	ス－23	35×30×9	P23	ケ－25	40×35×26	P45	ケ－28	28×28×30
P2	ス－23	30×32×12	P24	ケ－26	24×23×26	P46	ケ－28	21×20×16
P3	ス－23	28×25×7	P25	ケ－26	45×38×41	P47	ケ－28	20×14×5
P4	シ－23	29×－×11	P26	ケ－26	25×－×28	P48	ケ－28	30×18×4
P5	シ－23	30×27×39	P27	ケ－26	14×14×5	P49	ケ－28	21×14×8
P6	シ－23	44×24×13	P28	ケ－26	23×22×8	P50	ケ－28	20×17×7
P7	シ－23	25×25×7	P29	ケ－26	21×17×7	P51	ケ－28	21×17×8
P8	サ－24	23×20×22	P30	ケ－26	20×20×29	P52	ケ－28	25×24×36
P9	サ－24	20×15×10	P31	ケ－26	41×－×21	P53	ケ－27	16×15×6
P10	サ－24	31×25×17	P32	ケ－26	50×－×15	P54	ケ－28	50×40×21
P11	サ－24	24×21×21	P33	ケ－26	50×－×21	P55	ケ－28	30×28×39
P12	コ－24	20×15×5	P34	ク－26	49×45×17	P56	ケ－28	27×20×23
P13	コ－24	45×35×14	P35	ケ－26	23×20×28	P57	コ－27	28×25×21
P14	コ－25	25×25×40	P36	ク－26	38×35×28	P58	コ－27	58×52×13
P15	コ－25	17×15×9	P37	ク－26	20×20×5	P59	コ－27	29×28×13
P16	コ－25	18×15×13	P38	ク－26	30×－×6	P60	コ－27	28×－×42
P17	コ－25	49×45×78	P39	ク－26	25×20×10	P61	ケ－27	48×－×6
P18	コ－25	20×15×18	P40	ケ－26	20×18×10	P62	キ－29	20×18×46
P19	ス－23	36×30×38	P41	ケ－26	28×－×13	P63	キ－29	16×16×9
P20	ス－22	50×41×30	P42	ク－29	18×14×27	P64	コ－27	38×－×20
P21	コ－25	38×－×36	P43	ク－28	23×20×15	P65	ケ－25	53×50×66
P22	ケ－25	18×－×12	P44	ケ－28	30×－×5			

第３表　出土遺物観察表

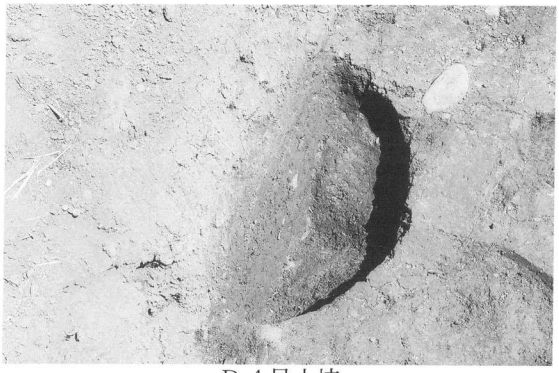
No.	種別	器種	法量 口径(長)	法量 底径(幅)	法量 器高(厚)	成形・調整・文様 内面	成形・調整・文様 外面	備考	出土位置
1	縄文土器	深鉢	－	－	(13.0)	ナデ	単沈線	中期後半　曽利Ⅳ～Ⅴ	検出
2	土師器	高坏	－	－	(6.0)	ヘラケズリ	ミガキ	回転実測	検出
3	灰釉陶器	坏	－	－	(5.9)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ　釉付着		Ｄ７
4	灰釉陶器	壷	－	－	(4.1)	ナデ	ナデ　釉付着	耳（把手）の部分	Ｐ56
5	須恵器	蓋	18.0	－	(9.9)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	回転実測　1/8残存	試掘
6	須恵器	坏	－	5.7	(2.8)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ　底部回転糸切り	完全実測　底部完形	Ｐ21
7	須恵器	坏	－	(9.2)	(2.0)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ　底部回転糸切り	回転実測	検出
8	土師器	坏	(14.8)	－	(3.2)	ロクロヨコナデ	ロクロヨコナデ	回転実測	P25
9	土師器	坏	(16.0)	－	(3.8)	ミガキ　黒色処理	ロクロヨコナデ	回転実測	検出
10	土師器	坏	－	(7.4)	(1.2)	ミガキ　黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ｄ９
11	土師器？	甕	－	(6.8)	(1.2)	ナデ　塗彩？	ヘラケズリ	回転実測	Ｍ１
12	須恵器	甕	－	－	(6.4)	タタキ痕磨り消し	平行タタキ		Ｄ７
13	須恵器	甕	－	－	(2.5)	ヨコナデ　自然釉付着	ヨコナデ		Ｐ５５
14	陶器	土鍋	－	－	(1.8)	ヨコナデ	ヨコナデ		試掘
15	陶器	すり鉢	－	(13.4)	(3.5)	ヨコナデ　磨り面一部残存	ミガキ	完全実測	Ｄ４
16	陶器	仏花瓶	－	(8.0)	(3.5)	釉薬	底部回転糸切り	瀬戸・美濃	試掘

No.	器種	素材	残存率	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置
17	磨石	細粒安山岩	完形	5.4	4.5	1.8	38.45	最大面に磨り	P25
18	磨石	輝石安山岩	完形	9.5	8.5	3.0	301.28	最大面に磨り	検出
19	砥石	凝塊岩	1/2	4.7	2.7	1.2	29.63	４面磨り	検出
20	打製石斧	輝石安山岩	4/5	16.6	8.4	2.9	470.51	基部欠損	検出
21	石鏃	チャート	完形	1.9	1.7	0.4	1.14	かえり一部欠損	Ｄ7
22	釘	鉄製品	完形	3.4	0.6	0.7	－		Ｄ５
23	刀子？	鉄製品	？	10.0	1.0	0.4	－	２本におれた後付着か	Ｐ21



Ｄ１号土坑

Ｄ２号土坑

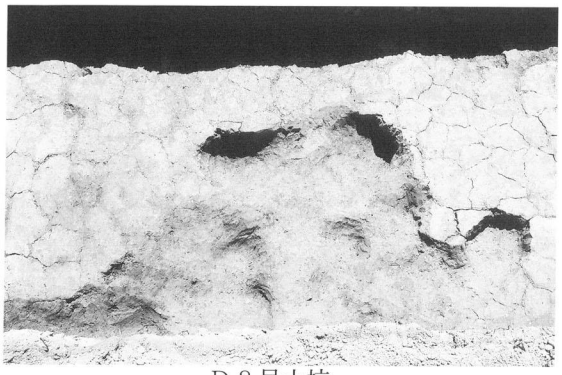


Ｄ４号土坑

Ｄ５号土坑

Ｄ６号土坑

Ｄ７号土坑

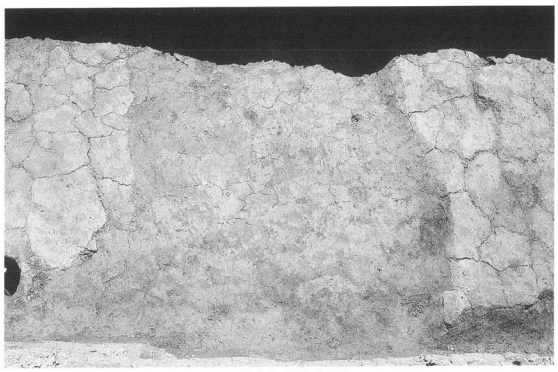


Ｄ８号土坑

Ｄ９号土坑

Ｍ１号溝状遺構

Ｍ２号溝状遺構

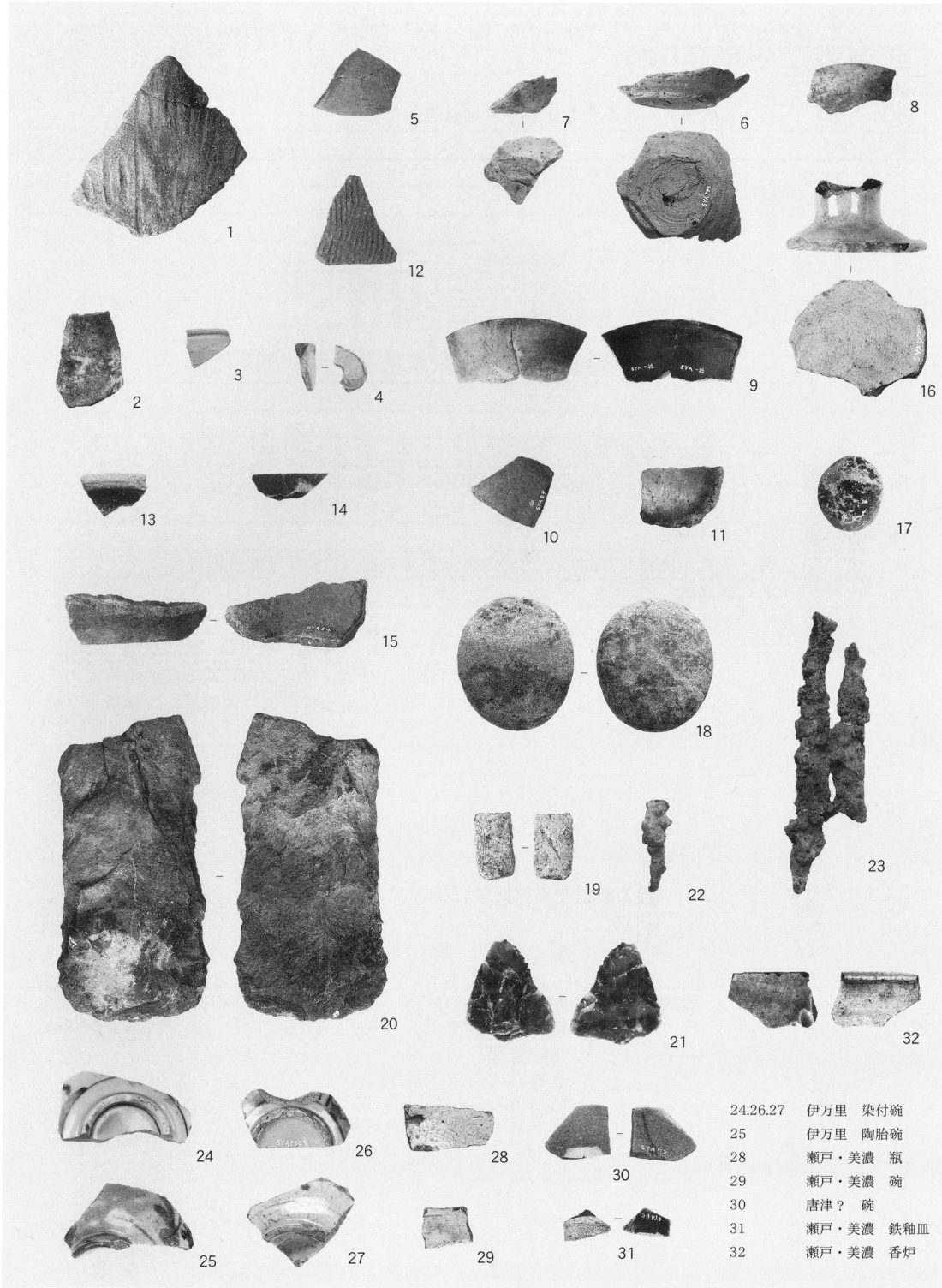


Ｍ３号溝状遺構

Ｍ４号溝状遺構

東側調査区全景

西側調査区全景


24.26.27　伊万里　染付碗
25　伊万里　陶胎碗
28　瀬戸・美濃　瓶
29　瀬戸・美濃　碗
30　唐津？　碗
31　瀬戸・美濃　鉄釉皿
32　瀬戸・美濃　香炉

出土遺物写真

報告書抄録

ふりがな	やうらいせき
書名	家浦遺跡
副書名	長野県佐久市湯原家浦遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第１７９集
編著者名	冨沢一明
編集機関	佐久市教育委員会　文化財課
所在地	〒385-0006　佐久市志賀５９５３　　TEL0267-68-7321
発行年月日	２０１０年（平成２２年）３月２９日
遺跡名	家浦遺跡
遺跡所在地	佐久市湯原２９４－３　外
遺跡番号	６１４
緯度	３６°１１′１３"
経度	１３８°２８′１５"
調査期間	（現場・整理）平成19年５月10日～平成20年３月31日 （整理）平成21年11月20日～平成22年３月29日
調査面積	９７㎡
調査原因	佐久市高速交通課　地方特定道路整備事業（U637号線道路改良）
種別	散布地
主な時代	奈良・平安
主な遺構・遺物	土坑．溝状遺構．ピット　縄文土器．石器．土師器．須恵器．陶磁器類．鉄製品
要約	奈良・平安時代を主とする遺構が検出された。今回の調査範囲は道路幅であり遺跡の全容は把握できなかったが、遺物の出土状況より周辺部には集落址が展開する可能性が指摘できた。
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第179集

家浦遺跡

編集・発行　佐久市教育委員会
長野県佐久市中込3056
文化財課
長野県佐久市志賀5953
電話 0267-68-7321
印刷所　キクハラインク有限会社